

# INTERIOR NEWSPAPER

PUBLISHED BY ROYAL FURNITURE COLLECTION - TOKYO

VOL.1  
DECEMBER 2017



## ポール・ヘニングセンの 自宅大公開!!

POUL HENNINGSEN HOUSE

DESIGNERS INTRODUCTION

革新的なデザインを生み出す  
ヨーロッパの有名なデザイナーの話

THE LIFE STYLE OF SCANDINAVIANS

スκανジナビアンおもてなしスタイル「ヒュッゲ」ってなに？

STORY

北欧スタイルのベッドルーム活用法

抽選で  
10名様に  
ペンダントランプ  
プレゼント



私が以前インテリアの世界について執筆していたのは大分昔になりますが、このたび、また筆を執ることにしました。私は29年前にこの会社を立ち上げましたが、以来、もう200回以上ヨーロッパへ通っています。現在でも年に8〜9回はヨーロッパを訪れ、その様々な生活様式に触れています。私はこの生活様式を「インテリア文化」と名付けています。当然ながらヨーロッパでは、インテリアは人々の暮らしと深く結びついていますし、この意味で「インテリア文化」は学校から公共機関、様々な施設を含む広い意味での社会そのものと言えるでしょう。つまり生活のすべての要素がインテリアのチョイスに影響を及ぼしているのです。ということで、これからこのメールマガジンでは、主にスカンジナビアのインテリアにまつわる様々なストーリーを取り上げていきます。これに加え、世界のインテリアにまつわる様々な情報を発信します。もちろんわが社のサプライヤからの「とっておきな」情報も併せて。将来、これらの記事をまとめた私のメールマガジンが皆様にとって素敵なインスピレーションの源となるよう願っております。

編集者：ニールス・オアフト ロイヤルファニチャーコレクション東京 創立者（1988年創立）

スカンジナビアのライフスタイル

# HYGGE

ヒュッゲ：(デンマーク語)

「ヒュッゲ」という言葉はデンマークの外でも良く知られるようになりました。

これは、様々な意味を含みますが、大まかにいえば「よい雰囲気」についての言葉です。

つまり、お客を家に招きキャンドルの明かりや暖炉の火を眺めながらおしゃべりしたり、甘いお菓子やケーキを食べたりして、くつろぐこと。

ゆったりとした語り、ストレス・フリー、そしてそこにいる人すべてが平等なひととき。

誰が上で誰が下などということがあったら、せっかくの「ヒュッゲ」の雰囲気が壊れてしまいますから。

「ヒュッゲ」は、あらゆる生活シーンに存在します。もちろん職場においてもありますが、私は自宅での「ヒュッゲ」についてお話したいと思います。

まずは、スカンジナビアが非常に北に位置していること、そして、このため冬の間は太陽の高度がとても低いということを頭に入れてください。デンマークはスカンジナビアの南端にあるのですが、それでもカムチャッカ半島とほぼ同緯度なのです。

近年、デンマークでは以前ほど雪が降らなくなりました。雪は冬の間外の景色を明るくしてくれますし、人々に外出する機会を与えてくれるので、みんな雪を待ち望んでいます。残念なことに最近では、冬はお天気があまり良くないので、人々が室内で過ごす時間が長くなりました。このため、友人や近所の人たち、家族が集まり、コーヒーを飲みながら「ゆったりと」歓談を楽しむ機会がますます重要なものとなってきたのです。そして、この時大切なのは、ダイニングテーブルにつくのではなく、居心地の良いソファや安楽椅子に座ること。そうすることにより、この集まりがよりリラックスしたものになるということです。このような「ヒュッゲ」なライフスタイルを楽しむには、もちろん十分な自由時間が必要です。そして、デンマーク人はその時間をもっているのです！例えば、会社の従業員が500台の車を止めている駐車場があるとします。就業時間が午後4時までだとすると、デンマークなら4時15分にはその駐車場はカラになってしまいます。つまり、毎日の暮らしにプレッシャーが少なく、「ヒュッゲ」を楽しむ準備もできるし、テーブルを囲んでくつろぐ時間がたっぷりあるということです。

キャンドルは「ヒュッゲ」の重要な要素なので、当然ながら莫大な量のキャンドルが消費されています。驚くべきことに、スカンジナビアでは一人当たりのキャンドル消費量が日本の150倍にも上るのです。来客があるとき、一度に10本から15本のキャンドルをつけることも珍しくありませんから。言い換えれば、キャンドルだけでなく電灯を含む照明器具は灯りとして「ヒュッゲ」の重要な要素なのです。



抽選で  
10名様に  
ペンダントランプ  
プレゼント

ご応募のメールをいただいた方の中から抽選で10名様にロイヤルファニチャーコレクション取り扱い商品 MUUTOの照明をプレゼントいたします。news@royal-furniture.co.jp のアドレスに会社名、お名前、ご連絡先、ご希望の商品、カラーをご明記の上、「プレゼント応募」の件名でご応募下さい。●法人様（インテリア関連）限定のご応募とさせていただきます。●応募の締め切りは3月31日、ご当選の通知メールの発送は5月の末を予定しております。●ご応募をいただいた方には不定期でメールマガジンの配信をさせていただきます。



## 非常に希少な存在 デザインユニット「TOOLS」

世の中には、類まれな才能に恵まれ、生涯を通じてとびぬけて素晴らしい芸術作品やデザインを創造し続ける人がいます。例えば、芸術で言えばピカソ、家具デザインで言えば、アメリカ人のイームズ夫妻のような。このような人材は希少ですが、幸運にもデンマークは、ハンス・J・ウェグナーやポール・ケアホルムを含む優れたデザイナーを輩出しています。そして、多くのデザイナーがもはや若くはなくなってしまった中、若い世代にもほんの一握りながら、何千ものデザイナーの中から抜きん出ている人たちが存在します。それは、常に新しく新鮮なデザインやアイデアを生み出し続ける人たちです。それも単に1年とかではなく何十年にもわたって。

Tools Design (トゥールズ・デザイン) というユニット名で活躍するヘンリック・ホルベックとクラウス・ジェンセンという二人のデザイナーがいます。ホルベックは1960年生まれで、コペンハーゲンの王立美術アカデミー、工業デザイン科卒の工業デザイナー兼建築家で、ジェンセンは、1966年生まれで、同じくコペンハーゲンのデンマーク・デザイン・スクール卒の工業デザイナーです。この二人の作り出す作品は私たちを驚かせ続け、今では彼らのブランドはデンマークでは誰もが知っている名前となりました。エヴァ・ソロというデンマークのキッチンウェアブランドの製品も彼らのデザインです。この二人は今までに300以上のデザイン賞を受賞し、世界中で文句なしに最多受賞歴を誇るデザイナーとされています。彼らは、単に家具というものをデザインするのではなく、多目的な用途に使える製品を作り出す方がよいという信条を持っています。確かに、彼らが最近ノルメイドというデンマークのブランドのためにデザインした製品の数々を見ると、コートハンガー、スツール、鏡、キャンドルホルダーなど機能的なアクセサリ・ファニチャーの素晴らしいコレクションとなっていることが分かります。二人は機能性と美しいシンプルなデザインとをどのように統合したらよいかを誰よりも良く理解しており、非常に数多くの幅広い作品を作り出してきました。そしてクラウス・ジェンセンによれば、今後もこの方向性を追求していくとのこと。「私は朝起きて、その日に、以前自分が作ったものと全く異なる新しいデザインを見つけ出すという目標を持たずに生きることはできない。以前の作品に何かを新たに付け加えることで、それが結果的に全く違った作品になるといったことも起こる。そうだ、新しいデザインを生み出す道はいろいろあるのだ。」とジェンセンは述べています。



TOOLS®  
CLAUS JENSEN & HENRIK HOLBÆK



EVA SOLO [FRIDGE CARAFE]



EVA SOLO  
[SMART BICYCLE HELMET]



EVA SOLO [TABLE GRILL]



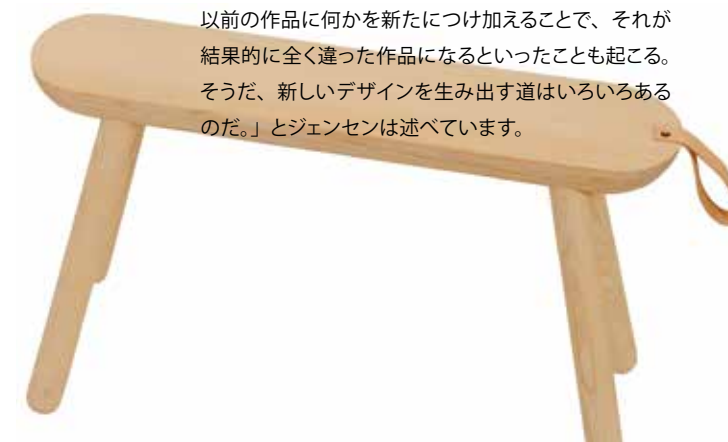
EVA SOLO [THERMO WATER FLASK]



EVA SOLO [BIRD TABLE]



NORRMADE [DONKEY]

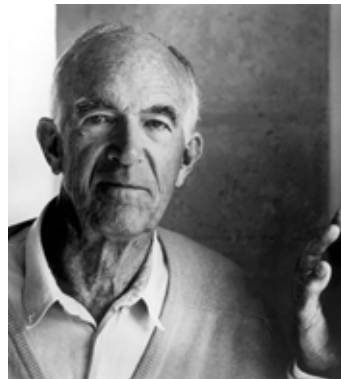


NORRMADE [SHEEP]



**UTZON  
PENDANT JU1**  
1947  
ウツォンペンダント JU1  
(アンドラディション)

Designer:  
Jorn Utzon  
1918-2008  
(ヨーン・ウツォン)



ヨーン・ウツォンは 20 世紀のデンマーク屈指の建築家で、1950 年代にオーストラリアのシドニー・オペラハウスを設計したことで知られています。このオペラハウスは、ウツォンの建築に対する有機的なコンセプトや表現豊かな彫刻的スタイルをよく表している作品と言えるでしょう。シドニー・ハーバーに向けて大きく広がる半曲線を描く屋根は、60メートルもの高さがあり、その形はまるで風を受けて膨らんだ船の帆のようです。この非常に目立つ建物は、どの方角から見ても違った表情を見せてくれます。実はこのデザインは、オレンジを剥いた形からヒントを得たものと言われていますが、確かに半曲線の屋根をすべて合わせてみると完全な半球となりそうです。ウツォンランプは、オペラハウスを設計する 10 年以上も前にデザインされたものです。ウツォンは自分の父親の船の設計図をヒントにこのランプの着想を得ました。このため、ランプには海の波を象徴するいくつもの曲線が使われ、航海中に船を導いてくれる月のような電球がついています。かなり昔に製作された作品でありながら、この素晴らしいデザインは未来においても通用し続けることでしょう。まさにこのランプは、先進的な職人たちが残した作品に敬意を払う弊社の伝統にふさわしいものであり、私共は誇りをもってこれを製品ラインナップに加えました。



**FLOWERPOT  
PENDANT VP1**  
1971  
フラワーポットペンダント VP2  
(アンドラディション)

Designer:  
Verner Panton  
1926-1998  
(ヴァーナー・パントン)



ヴァーナー・パントンは建築を志す前、コペンハーゲンの王立美術アカデミーで絵画を学びました。その後、建築家・デザイナーであるアルネ・ヤコブセンに師事し、続いて家具・インテリア・デザインの道に進み、脚の無い椅子、壁に立てかけて置くソファなどの前衛的なデザインで一躍有名になります。1960 年代および 70 年代になると、パントンは空間全体のデザインに情熱を傾けるようになり、幻想的な模様が特徴的な独特のインテリアや、家具、照明器具、壁紙、ポスター、敷物などの未来的なデザインへ発展します。パントンは、その先駆的な素材、色彩、形の使い方、時代を先取りする先見者としての評判を高めました。その業績は高く評価され、1998 年にはデンマーク女王より Knight's Cross of the Dannebrog Order (ダンネブロ勲章) を受章しました。フラワーポット・ランプは、60 年代におけるフラワーパワー平和運動の紋章となりました。様々な鮮やかな色彩を持つこのランプは、発表された 1968 年当時と変わらず現在でもモダン・デザインの代名詞となっています。



## BEDSIDE STORIES

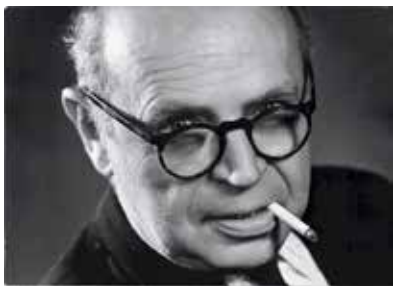
世界には人々がベッドで過ごす時間が長い国と短い国があります。スカンジナビア人はもちろんベッドにいる時間が長い方でしょう。とは言っても、長い時間眠るわけではありません。ただ、ベッドで過ごす時間がとても好きなのでしょう。本を読んだり、朝食を取ったり、テレビを見たりして。このため、ベッドルームのインテリアは非常に重要なのです。ベッドで過ごす時、目に映る周りのインテリアを眺めて楽しみたいのです。中でも一番大切なのは照明器具です。照明器具は、機能性だけでなくそのデザインや明るさが大事です。最も人気があるのは断然ウォールランプ。明るさを調整しやすい

からです。ベッドサイド・テーブルに置かれたテーブル・ランプには埃がたまるものですし、とすると夜中に誤って肘にぶつけ倒してしまい、なかなか見つからないこともあります。だから、ほとんどの家ではウォールランプを使っています。ベッドは一般的に高価なものですから、多くの人はベッドルームのウォールランプにも同様にお金をかけます。これだけよく使うのですから、有効な投資と言えますね。ところで、スカンジナビア人の目は青くて、光に敏感なので、後方から光が照らしてくれるような照明器具を選ぶことが重要なのです。まあ、それはまた別のお話ですが！



POUL HENNINGSEN HOUSE

# ポール・ヘニングセンの家



Poul Henningsen [1894-1967]

ポール・ヘニングセンは、デンマークの女優アグネス・ヘニングセンを母として、コペンハーゲンに生まれました。1911年から14年にフレデリクスベアのテクニカル・スクールで、1914年から1917年にコペンハーゲンのテクニカル・カレッジで学びました。伝統的な機能主義建築をキャリアのスタートとした後、彼の興味は照明の分野に移っていきました。また、活動領域は文筆活動にも広がり、ジャーナリスト、作家としても活躍しています。第二次世界大戦初期、コペンハーゲンのティヴォリ公園の主任アーキテクトも勤めましたが、ドイツ軍占領時には他の多くの芸術家たちと同様、スウェーデンに亡命し、亡命先のスウェーデンではすぐさまデンマーク人アーティスト・コミュニティの中心的人物となりました。ルイス・ポールセン社とのコラボレーションは1925年に始まり、1967年に亡くなるまで続きました。ルイス・ポールセン社は今日でも、ヘニングセンの天才の恩恵を受けています。ポール・ヘニングセンは、ルイス・ポールセン社の広報誌「NYT」の最初の編集者となりました。この「NYT」誌は、当時のルイス・ポールセン社 CEO、ソーフス・カストラップ・オルセンが、デンマークの新聞社からライターとしての活動の場を追われたヘニングセンに、プレゼントとして提供したものです。(彼の政治的、文化的意見は当時、かなり急進的なものでした。)

ポール・ヘニングセンがパイオニアとして切り開いてきた照明分野の業績「影と光、グレア、光による色の再現、そしてそれら光の特性を人間の福利に結びつこうように利用すること」は、いまでもルイス・ポールセン社が実践するライティンググレア（輝度）・セオリーの基礎となっています。



ポール・ヘニングセンが暮らした家は、彼が引っ越した1937年当時とほぼ同じ状態に修復されました。Drop、木製脚のGrand Prix、Antのような様々な椅子を置いていました。壁と天井の色は1937年当時のように再現された。多くの部屋はブルーの天井にグリーン色の壁、窓枠は全てアイアン製で、リノベーションを担当したRealdania By & Byg社の建築家 Per Troelsenはこのプロジェクトに取り組んだ数ヶ月間で、ポール・ヘニングセンが自分の身体の一部になったように感じたと言います。彼は小さなひび割れひとつからオリジナルの素材研究まで完璧にクリアにしました。それはやりがいのある、興味深い作業でした。「私たちがこの家を受け取った時、土台に明らかな問題があることに気づきました。詳しく調べると、このダメージの原因は急勾配に建てられたこの家が滑り落ちそうになっていることだと解

りました。1937年の冬に作られたこのスロープ式の土台の一部は地面に30cmしか喰い込んでおらず、さらにコンクリートは質の悪いものでした。今回のリノベーションの第一段階はこの家の土台を安全なものに造り直すことでした。家屋が安定し、かつ土台が凍結しない深さまで地面を掘ること、そしてスロープ式ではなく、地面にしっかりと繋がる階段式の土台に変えることでした」と、この特殊な文化遺産のリノベーションを担当した Per Troelsen は説明します。「Realdania By & Byg社がこの家を購入したときは、キャビネット、シェルフ、床、窓、窓枠、ラジエーターなどは全て当時のままでした。築80年の家がこのようなオリジナルな状態であるのは素晴らしいことです。今でもこの家はポール・ヘニングセンが住んでいた当時とほぼ同じ状態で暮らすことができます」。

## 裸の女性たちの反乱

ベッドルームと長い通路の壁紙は、彼の義兄である画家 Albert Nauer が描いたもの。裸の女性のモチーフは、中産階級に対するポール・ヘニングセンの反乱であった。この古い壁紙にはカビが生えていたため、National Museum の学芸員が丁寧に外し、デザイナーの Heidi Zilmer が見事に再現した。100 シート以上の壁紙が使われている。





# BO BEDRE JAPAN

BO BEDRE は北欧最大のライフスタイル誌です。  
月刊誌「BO BEDRE」の発刊や日本語版の「BO BEDRE JAPAN」の製作を中心に各種イベントやワークショップの企画・開催やコンサルティング業務も行っています。ライフスタイル全般にわたり日本と北欧をつなぐ情報発信をしています。  
www.bobedre.jp



## OX DENMARQ 大理石テーブル

OX DENMARQ は 2004 年にデンマークで設立されました。テーブルに使用している素材はイタリア、スペイン、インドで採掘された高品質な大理石です。デンマークデザインの伝統と高品質な素材、熟練した職人技による製品づくりで成功を収めました。硬質な材料を用いながらも軽やかでエレガントなデザインが特徴です。



**OXDENMARQ**  
DENMARK

## ロイヤルファニチャーコレクション・ホームページリニューアル!! [www.royal-furniture.co.jp](http://www.royal-furniture.co.jp)



デザイナーのプロフィールや製品の情報、カタログや画像、スペックシートなどがダウンロード可能になりました!!  
最新の在庫状況もご確認できます!!



日本総販売元  
株式会社 ロイヤルファニチャーコレクション  
〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-4 1階:ショールーム 2階:オフィス  
TEL:03-3593-3801 FAX:03-3593-3802  
www.royal-furniture.co.jp info@royal-furniture.co.jp



## Herman Miller Store

丸の内にある世界初のハーマンミラーの直営店、ハーマンミラー ストア 東京ではネルソン・バブルランプシリーズを多数展示しています。ハーマンミラーのデザインディレクターのジョージ・ネルソン本人が手がけたプロダクトとして、ネルソンバブルランプはあまりにも有名です。新たにテーブルランプとフロアランプの展示が加わり、ネルソンバブルランプをフルラインナップでご覧頂けるハーマンミラーストア東京に是非足をお運びください!!

ロイヤルファニチャーコレクションは  
日本におけるネルソンバブルランプの総販売元です。

### ACCESS

ハーマンミラーストア

住所: 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1

営業時間: 11:30-20:00 (定休日なし) TEL: 03-3201-1840

ロイヤルファニチャーコレクションでは、168ページのVol.6 照明カタログと、176ページのVol.5 照明+家具カタログをご用意しております。カタログご希望の方は弊社までお問い合わせください。(Vol.6 照明カタログは2018年1月印刷予定です)



Vol.6 照明カタログ (168 ページ・PDF)  
+ LAMPS COLLECTION



Vol.5 照明+家具カタログ (176 ページ)  
LAMPS + FURNITURE